

看護闘争ニュース

NO. 83

2006年 9月21日

関西ブロック

“関西ナースフォーラム in 京都”に 200 人

9月3日の日曜日、京都の繁華街を200人の白衣の看護師たちが、「看護師増員オッケーオッケー！」と訴えパレードしました。主催は、京都医労連や自治労連・民医連・関西看護良くする会などでつくる「ひろがれ看護のこころKYOTO連絡会」と日本医労連関西ブロック。

フォーラムでは、兵庫県立大学看護学部の勝原裕美子助教授が「看護の誇り - いま看護師にできること - 」と題して講演。アメリカの病院が利益を重視した結果、看護師が少ない人数で重症患者を担当することになり、ケアの質の低下や看護師不足を招いている。日本もいま、アメリカ同様の事態に陥っている。貧困と較差を拡大させ、保険会社が病院を統合させ、患者を奪い合っているアメリカの医療現場の実態を告発しながら、看護師が誇りを持って患者に接する看護の大切さを強調しました。

フォーラムのあと参加者は、「夜勤はきつい。給料も専門職に見合っていない。辞めていく人も切実です。でも、元気に自分たちでこの状況を変えなければ」と、元気にパレードに出発しました。

関西ブロックでは「関西はひとつ」を合言葉に、11月の兵庫県医労連が中心に「看護の危機突破！500人看護集会」、6月の大阪医労連中心に900人が集った「関西ナースウェーブ集会」と、関西ブロック全体で協力体制をとりながら、一つ一つ成功させてきました。



全労災署名を至急単組でも集めてください(10月26日に署名提出を予定中)
宣伝行動も支部で予定。ビラ配布・宣伝に協力を。単組でもビラ配布を

岡山県医労連

■ 10.27 集会までにあと 2048 筆！

「10.27 集会に 5000 人の動員で成功を」の提起を、県医労連では正面から受け止め、奮闘しています。

9月14日の定例の署名宣伝行動日には、20人が参加をし30分で260筆の署名があつまりました。「10.27 集会までに1万筆」を目標に取り組んできましたが、あと2048筆となりました。

■ 「需給見通しの見直しを」県に陳情

— テレビ局と5新聞社が駆けつけ報道！ —

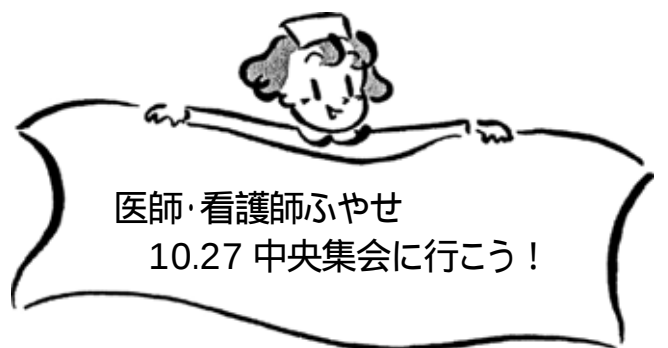
診療報酬の看護配置「7:1」の新設により、すでに県の需給見通しが破綻しており、来春の新人確保にむけて、看護師不足がいきなりすすむことが予測されることから、「早急に見直しせよ」と岡山県議会に2000筆の署名と一緒に、9月11日に陳情しました。

当日は、テレビや新聞記者が取材に押しかけており、緊張の中での提出となりました。夕方のRSKと新聞は5社が報道しました。

和歌山県医労連

“看護師ふやして”市内を 100 人がパレード

9月2日の土曜日、100人が深刻な看護師不足を訴え、和歌山市内をナースパレードしました。主催は、和歌山ナースウェーブ実行委員会・和歌山県医労連・県民医連の3団体。JR和歌山駅地下広場の出発で、和歌山県民医連会長は「病棟では医師が指示を出したくても、看護師さんをつかまえるのが大変。コマネズミのように走り回っています。多くの人に実態を知ってもらい、看護師をふやしたい」とあいさつ。その後「和歌山の看護師をふやしてください」の横断幕をもってパレードしました。



全労災の「月8日以内夜勤協定」に支援を

全労災は、すでに06春闘で、準夜のストライキを配置しながら、独立法人労働者健康福祉機構に、月8日以内夜勤協定の締結について「検討していく」との回答を引き出しました。この秋闘で確実に協定を勝ちとっていくために、ストライキだけでなく、機構理事長宛の署名も加えて、戦術強化してたたかっています。

医労連の増員署名を片手に、もう一方に全労災署名を持って奮闘中です。

北海道医労連

12月議会までに道内全自治体での決議を！

180自治体のうち163自治体へ陳情 41自治体で採択

■「北海道11万3000人以上看護体制」をかかげて北海道需給見通しに對峙してきました。道議会に対して「医師・看護師の大幅増員を求める」陳情書を提出し、加盟単組が分担して道議会議員への要請行動に取り組み、180自治体のうち163自治体へ陳情し41自治体で採択され、現在継続審議中の自治体もあります。「12月議会までに」の提起にそって、担当単組・支部が奮闘中です。

あわせて、北海道選出国会議員への要請もこの秋予定しています。

■10.27中央集会には、北海道から80名の代表派遣を予定しています。この80名を「単なる集会動員」とせず、単組・支部で職場討議や派遣のためのカンパなどの取り組みを通じて、参加者1人1人が文字通り「職場の代表」として参加できるよう、県医労連は呼びかけています。